

と飛びはねる カエルと、おかしな こと

トムは、^{あた}新しい ^{こくご}国語の ^{きょうかしよ}教科書を パラパラと めくってみた。^{ぶんぽう}文法についての ^{きそく}規則や ^{れんしゅうもんだい}練習問題で いっぱいだ。トムは、^{しんぱい}心配に なってきた。

トムは、^{なに}何か もっと ^{おもしろ}面白い ものはないかと、^{まど}窓の ^{そと}外に ^め目を やった。
^{きのう}昨日の ^{おも}ことが ^だ思い出される。カエルをつかまえて ^{あそ}遊んだっけ……。

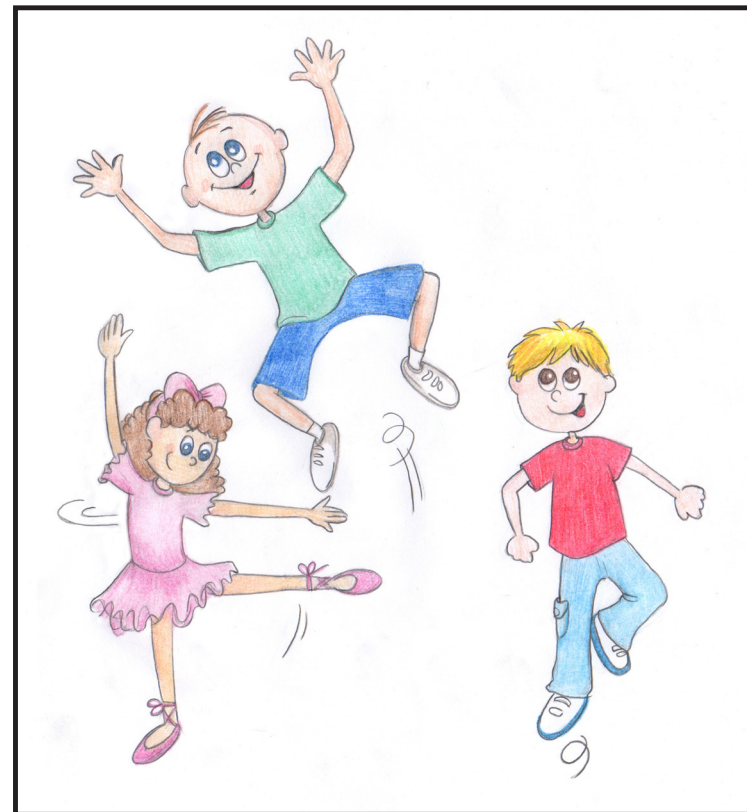


トムは、^{ものおも}物思いに ふけた。(それに してもな〜。こんな ^{きょうかしよ}教科書よりも、カエルの ほうが ^{じょうず}ずっと ^{ぶんぽう}上手に ^{おし}文法を 教えられるんじや ないかな。
カエルが ^{どうし}動詞について ^{おし}教えてくれたら、どんなに ^{たの}楽しいだろう。だって、カエルは まるで、^い生きた ^{どうし}動詞みたいだもの！)

「さ～て、みなさん。」 たった今、開いた 窓から 教室の 中に 飛びこんできた 新しい
 カエルの 先生、ミセス・フロッグだ。「文法の 教科書は 閉じて。今から 私の 大好きな 科目を
 勉強するわよ。そう、動詞！ みんな、床に 手をついて。最初の レッスン、『はねる』よ。
 そう、はねるの。はねて、はねて！ じゃあ、あなたたちが 腕とか 足とか 呼んでいる ものを
 全部 地につけ、四つんばいのまま 外に 出ましょう。力を入れて、もっと 高く はねるのよ！
 地面から どのくらい 高く はねられるか、見てみましょうか。おしりを 上げて、高く
 はね上がれるように 練習するのよ！



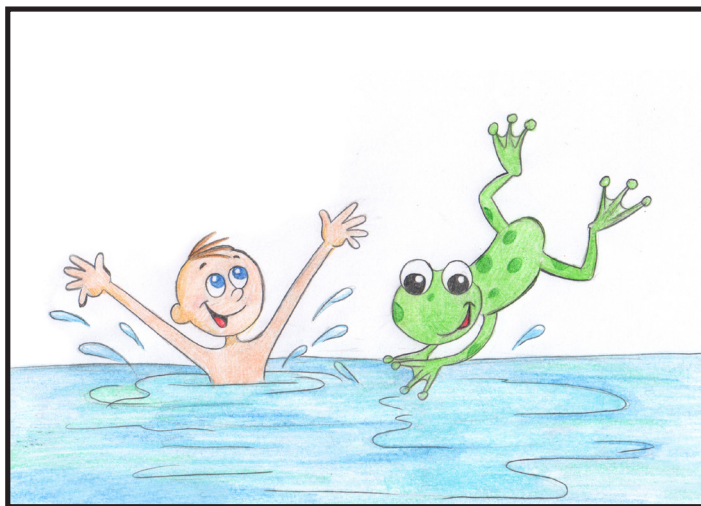
みんな、動いて！ 動詞は 動きを表す 言葉よ！
 みんな、動詞になってね。ビリー、一体全体、なぜ
 そんな すみの方で すわりこんでいるの？ まるで、
 石や ブロックや こぶや 固まりなんかの 名詞みたい
 じゃないの！ 人や 場所や ものや アイデアには
 なっちゃ だめよ！ 飛びはねるの。動き回って。
 名詞君とは バイバイよ。走り回って 遊ぶの。今日は、
 楽しみましょう。



フレッド。あなたは まるで、何かが
 過去形か 現在形か 未来形かについて
 話す be 動詞みたいだわ。

動いて、動いて、動きましょう！ 筋肉を
 使って、使って、使いましょう！ 動きを
 表す この すばらしい 動詞たちを、体で
 感じるのよ！ はしゃいで、転がって、
 急いで、走り回って、はね回しましょう！
 動詞には パワーがあるわ！ 動きを表す
 時も、何かの 存在を表す 時もね！

「みんなは、^{いま} 今も ^{むかし} 昔も ^{しょうらい} 将来も、^{どうし} 動詞の ^{すばらしさ} 素晴らしさを
^{まな} 学ばば ^{しあわ} 幸せよ。はねて、スキップして、^{そと} 外に ^と 飛び出し
ましよう。そしたら ^{すいえい} 水泳プールまで ^{きようそう} 競走よ。着いたら、
^{みず} 水の中も ^{なか} また、^{あた} 新しい ^{まな} 学びの ^ば 場。みんなで ^{およ} 泳いで、
バシャバシャして、^と 飛びこんで、^{みず} 水を ^わ かき分け ^{すす} 進む
ことを ^{まな} 学びましよう。ずっと ^{みず} 水の ^{そと} 外に ^い いるなんて、
^{かんが} 考えるだけでも、^{わたし} 私の ^{あたま} 頭は ^{ひから} ひか
らびてしまうわ。だって、
^{わたし} 私は ^{カエル} カエルなんですもの。」



「ちょっと ^ま 待った！ この ^と 飛びはねたり ^{はし} 走ったりの
^{おお} 大さわぎは、もう ^{おしま} おしまいだ！」^{きょうしつ} 教室の ^{そと} すぐ 外に
^た 立っている、^{おお} 大きな ^{ふる} 古い ^き 木が ^い 言った。「^{こんど} 今度は、
^{みんな} みんな ^{じめん} 地面に ^{すわ} すわって、^{めいし} 名詞に ^{あそ} なって 遊んでは
どうかね？」

^い 言うまでもなく、^{ミセス・フロッグ} ミセス・フロッグは ^{すこ} 少し ^む むっと
して、^い とにかく ^{ピョンピョン} ピョンピョン ^{はね} はね続けた。「^{名詞} 名詞なんて、

たいくつだわ。ただただ ^{ねむ} 眠くなって、いびきを ^か かくだけよ！」^{ミセス・フロッグ} ミセス・フロッグは ^{おお} 大きく
まばたきすると、^{バシャン} バシャン！ ^{いけ} 池の ^{そこ} 底にもぐっていってしまった。



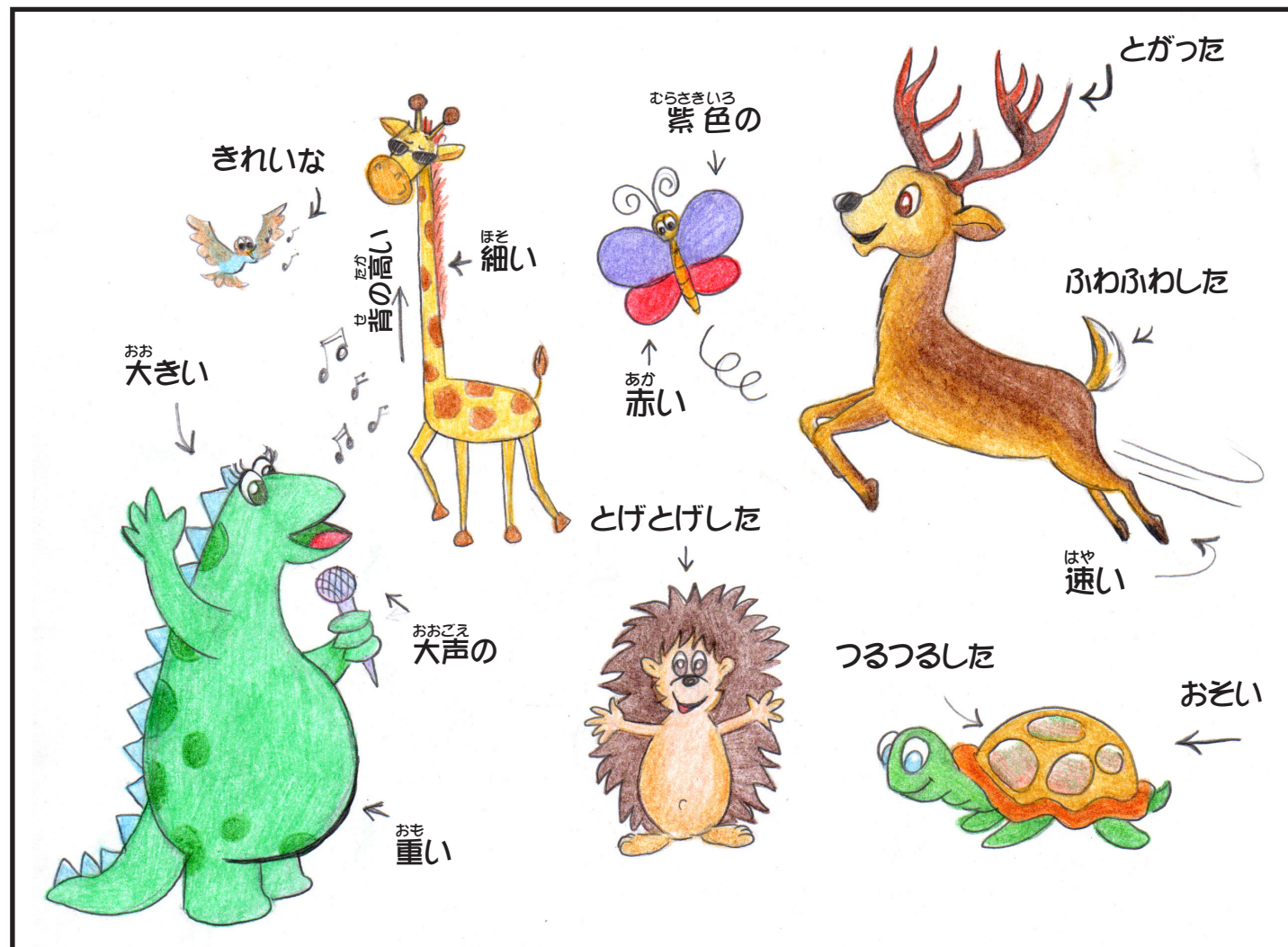
^{ミスター・ツリー} ミスター・ツリーは ^{わら} 笑いを ^こ こらえながら、^{せきば} せきばらいをした。「さあ、^{わたし} 私の ^{あと} 後について、
^{れんそう} 『連想ゲーム』を ^し してみよう。今から、^{自分} 自分の ^{見える} 見える ^{もの} ものになるんだぞ。見える ^{もの} ものや
^{かぞ} 数えられる ^{もの} ものは、^{たくさん} たくさん ^{ある} ある。思いつく ^{アイデア} アイデアだって、^{大きく} 大きくても ^{小さく} 小さくても、
^{すばらしい} すばらしい ^{名詞} 名詞の ^{世界} 世界の ^{一部} 一部だ。石に ^水 水、日光に ^砂 砂。事実、^{地上} 地上や ^{地下} 地下にあるもの
すべてだ。ダイヤの ^{指輪} 指輪も、キャンディーや ^{ガム} ガムも、紙も ^車 車も ^家 家も ^{道路} 道路も ^{通り} 通りも、
思いつきや ^{考える} 考える ^{こと} ことも、^{全部} 全部だよ。^{用務員} 用務員さんも ^{ミセス・フロッグ} ミセス・フロッグも、^{ネコ} ネコも ^犬 犬も、
^{ピエロ} ピエロだって、^{すばらしい} すばらしい ^{名詞} 名詞の ^{世界} 世界の ^{一部} 一部なのだ。^{男の子} 男の子達も、^{女の子} 女の子達も、
^{お母さん} お母さん達も、^{お父さん} お父さん達も、^{料理} 料理の ^{レシピ} レシピも、^{物語} 物語も、^鳥 鳥も ^雲 雲も ^花 花も・・・。」

ミスター・ツリーの ^{めいし}名詞についての
^{はなし}話にも ^{ねつ}いよいよ ^{はい}熱が入ってきたころ、
 とげとげだらけの ^{ちやいろ}茶色い ^きハリネズミが
 よたよたと やって来た。



「おやまあ。ミスター・ツリーは、
^{ひと}一つ一つの ^{めいし}名詞が ^も持っている ^{とくしよく}特色に
 ついては ^{はな}話してくれて ^{ない}いないのかい。
^{けいようし}形容詞という ^{ようす}様子 ^{ことば}言葉が ^{なければ}なければ、
^{むり}無理だろうね。ミセス・フロッグは、
^{どうし}動詞、^{どうし}動詞って ^と飛びは ^{ねる}ねるだけだし。
 だけど、^{めいし}名詞と ^{どうし}動詞だけで、^{いろ}色や
^{とくちよう}特徴 ^ななんか ^ななかったら、^{じんせい}人生は
 すごく ^{たいくつ}たいくつで ^{つまらない}つまらない
 ものになっちゃうよ。ぼくは、
 そんな ^{めいし}名詞や ^{どうし}動詞は ^{ごめん}ごめんだな。

ぼくは、^み見て、^き聞いて、^{かん}感じる ^{こと}ことの ^{できる}できる、^{ようす}様子や ^{くわしい}くわしい ^{こと}ことを ^{あらわ}表す ^{ことば}言葉が ^{ほしい}ほしいんだ。



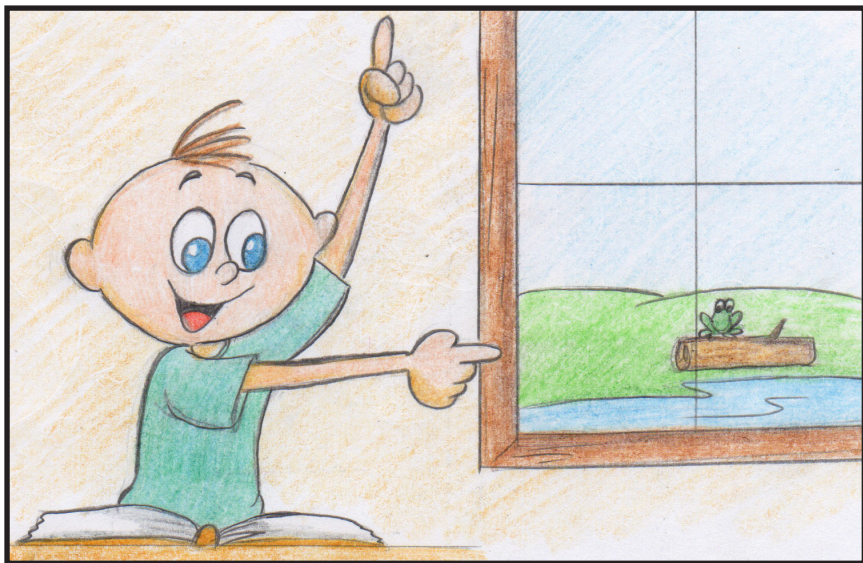
それは、^{おお}大きい？ ^せ背が ^{たか}高い？ ^{はや}速く ^{はし}走れる？ それとも ^{ゆっくり}ゆっくり？ ^{むらさきいろ}紫色を ^{あか}している？ ^{あか}赤い？
^{あたま}頭には、^つどんな ^{おも}角が ^{ほそ}ある？ ^{おも}重い？ ^{ほそ}細いかな？ ^け毛羽 ^だ立ってる？ それとも、^{つるつる}つるつるしている？
^{ごえ}さえずり声は ^{おお}大きい？ それとも、^{しず}静か？ ^{かんが}考え ^{かぎ}つく限りの ^{けいようし}形容詞や ^{ふくし}副詞を ^{つか}使って ^{ものごと}物事を ^{びようしや}描写し、
 ぼくが ^{あたま}頭の中 ^{なか}で ^{おも}思い描ける ^{えが}ように ^{はな}話してほしいんだ。」

「トム、今の質問に答えられる？ トム？」スプリント先生が言った。

トムははっとして、先生の方を見た。

「どう、トム？ 文章の中で、動きや、過去形か現在形か未来形かを表す品詞の名前が分かる？」

トムは答えた。「はい。カエルです。丸太の上を飛びこえるカエル・・・つまり、動詞です！ 動詞は、動きを表す言葉ですから！」



「はい、そうですね。」と、スプリント先生が言った。

「でも、どうして『カエル』って答えたのかしら。確かに、「飛びはねる」は動詞だけれど。とにかく、今日の授業はここまででおしまいです。ではみなさん、また明日会いましょう。」



トムは、すぐさま立ちあがった。「やったー！ 動詞のおかげで、助かったぞー！」
トムは飛びはね、飛び上がって、スキップしながら教室のドアから出て行った。